

QoL (Quality of Life)

一般に「生活の質」と訳され、人が人として有意義に生きるにはどうしたらいいかということをテーマとし、自分の生存状況についての満足・生きがいなどの意識を含む、全般的、主観的な幸福度を表します。

ストック活用型社会

ストック(Stock)とは、住宅総戸数、自動車の保有台数、預金残高など、経済財の存在量のことを言います。

ストック活用型社会では、住宅・鉄道・道路・自動車・家電などの総量をこれ以上増やさないで、買い替え・修理・更新・メンテナンスに重点を置き、「物」を使い捨てるのではなく、何度も繰り返し使い、製品も長寿命化することにより、大量生産・大量消費に代わって、適正生産・適正消費を目標としています。

都市再生特別地区

都市機能の高度化と都市居住環境の向上を図ることを目的とした、都市再生特別措置法(2001年施行)に基づく新たな都市計画地区のことです。

都市再生特別地区内では、既存の用途地域や容積率などの規制の適用を除外して、都市再生に必要な範囲で用途・容積率などを定めることができ、自由度の高い都市計画をつくることができます。

e-Japan戦略 II

2001年1月に政府がまとめた「e-Japan戦略」に続き、2003年7月に発表された、わが国の第2期IT戦略を指します。第1期のe-Japan戦略がIT基盤の整備を主な目標にしていたのに対して、e-Japan戦略IIでは、ITの利活用による「元気・安心・感動・便利」社会の実現を目指しています。具体的には、医療、食、生活、中小企業金融、知、就労・労働、および行政サービスの7分野で具体的な方策を示し、先進的な取り組みにより、その成果を他のIT利活用分野へ展開していくとしています。

また、新しいIT社会基盤整備として、(1)次世代情報通信基盤の整備、(2)安全・安心な利用環境の整備、(3)次世代の知を生み出す研究開発の推進、(4)IT利活用時代のIT人材の育成と学習の振興、および(5)ITを軸とした新たな国際関係の展開が提示されています。

トレーサビリティ(Traceability)

生産品の生産、加工、流通などの各段階で、原材料の

出所や製造元、販売先などの記録を記帳、保管し、生産品とその情報を追跡できるようにすることで、(1)生産品の安全性に関して予期せぬ問題が生じた際の原因究明や問題品の追跡・回収を容易にすることと、(2)「生産場所から家庭まで」の過程を明らかにすることによって、生産品の安全性や品質表示に対する消費者の信頼を確保することを目的としています。

ホスピタリティ(Hospitality)

「親切なもてなし」を意味し、自己の利益を獲得するための義務的・機能的な奉仕、貢献行為であるサービスに対して、ホスピタリティは相互応酬関係をつくるための能動的な行為のことを指し、コミュニケーションの結果としての付加価値そのものであり、そのコミュニケーションのあり方は、最近の情報通信技術の発展によって多様化しています。

マイクログリッド(Microgrid)

「細かい格子」を意味し、商業地域や工業団地、集落などの一定地域内で、複数の分散型電源、電力貯蔵装置、電力負荷設備をさまざまに組み合わせて制御、運用することにより、電力供給システムとしての経済性や電力供給信頼度を向上させ、需要家のニーズに合わせた、効率的な供給を行うシステムや手法です。

自律分散型社会

一つ一つの「物」それぞれが、なにがしかの自律・自立力を持ち、ネットワークで結び付いて、必要に応じて互いの役割を交代したり分担したりしながら、さまざまな形式の交流(コミュニケーション)や協働(コラボレーション)を活発に展開する社会を意味します。

この社会では、物や情報の生産・流通者対消費者という役割分担の固定化がなくなり、だれもが、情報(コンテンツ)を積極的に創造、発信したり、探索、加工したりできるようになります。

アイリス(Iris)

黒目の内側で、瞳(どう)孔よりも外側のドーナツ状の部分を言い、瞳孔の開き具合を調節する筋肉で構成しています。外界から眼球内部へ入射される光の量を調整する機能を持つ部分であり、カメラの絞りに相当します。

アイリスによるIDは、デジタルカメラなどで撮影したアイリスのパターン画像をデータ化し、あらかじめ登録してある本人のアイリスデータと比較照合することによって個人を特定するものです。

BEMS

Building and Energy Management Systemの略で、業務用ビルなどにおいて、室内環境やエネルギーの使用状況を把握し、室内環境に応じた機器・設備などの運転管理によってエネルギー消費量の削減を図るためのシステムを言います。

主に計測・計量装置、制御装置、監視装置、データ保存・分析・診断装置などで構成します。

BEMSの導入により、運転の最適化と管理者に対する判断材料の提供が可能となり、室内環境を維持しながら、いっそうの省エネルギー化を図ることができます。

LonWorks

LON(Local Operating Network)を構築するためのすべて(ハードウェア、ソフトウェア、プロトコル、体制など)を総称することばです。LonWorksには、インテリジェント分散制御ネットワーク技術が使われているので、従来の集中型制御に比べて分散型制御では配線がシンプルで、故障による影響範囲が小さく、応答速度が向上するという利点があり、分散制御・集中監視を得意とします。

RFID(Radio-Frequency Identification)

無線電波によって、IDを受信器に送信する機能のことです。

NPO(Nonprofit Organization)

さまざまな非営利活動を行う非政府、民間の組織であり、通常「民間非営利組織」と呼ばれます。

コーポラティブハウス(Corporative House)

18世紀に英国で誕生した、住宅を共同購入する仕組み、またはその住宅のことで、近年、大都市部でその価値が評価され、数多くのプロジェクトが進行中です。

テレワーク(Telework)

情報通信手段を取り入れて空間的束縛からの解放を図った、在宅勤務などの就労形態を言います。サテライトオフィス、リゾートオフィス、SOHO(Small Office, Home Office)などの形態が実践され始めています。

コンバージョン(Conversion)

建物の用途を転換することを指します。都市再生のコンバージョンでは、(1)オフィスの供給過剰対策として、オフィスビルからマンションへの用途変更、(2)既存公共施設の有効活用のための用途変更などが注目されています。

ウェブサービス(Web Service)

WWW(World Wide Web)関連の技術を使い、ネットワークを通じてソフトウェアを利用できるようにしたサービスです。機能の記述や呼び出し手順などの標準化が進行中であり、これが完了すれば、部品化された複数のウェブサービスどうしをつなぎ合わせてアプリケーションを構築することが可能となります。

ウェブサーバ(Web Server)

HTML(Hypertext Markup Language)文書や画像などの情報を蓄積しておき、ウェブブラウザなどのクライアントソフトウェアの要求に応じて、インターネットなどのネットワークを通じて、これらの情報を送信するサーバです。

ホットスポット(Hot Spot)

喫茶店やレストラン、空港、駅、ホテルなどに無線LANやBluetooth^{※)}などの無線ネットワークを設置して、無線でのインターネット接続サービスを不特定多数の利用者に提供している空間(スポット)のことを言います。

インターネット接続業者などが商用サービスを提供したり、飲食店などが利用客に対して無料サービスを提供するホットスポットまで、その形態は多種多様です。

サステナビリティ(Sustainability)

「維持する、持ちこたえる」を意味するsustainの名詞形で、維持する力、持続可能性と訳されます。

1987年にWCED(World Commission on Environment and Development:環境と開発に関する世界委員会)が発表した、“Our Common Future(われわれの共通の未来)”の中での定義に採用されたことばで、国家が主体となり、「将来のニーズを損なうことなく、現在のニーズを満たす」ことを目的とした概念として提唱され、近年注目を浴びています。

※)Bluetoothは、米国Bluetooth SIG, Inc.の登録商標です。